

飯盛城は如何にして、天下人の城になったのか

2024年3月24日 天理大学 天野忠幸

はじめに

○飯盛城のたどった歴史

戦国時代後半の1530年頃から1570年頃まで約40年間のみ存在した城郭

しかし、畿内（「天下」）における重要度は桁違い

天文の一向一揆 …本願寺・百姓 VS 武士

「堺幕府」の崩壊 …二つの将軍家、足利義晴 VS 足利義維

木沢長政の下克上 …畠山管領家の奉行人から「守護」へ

三好長慶の居城 …「室町殿」から「天下人」へ



19—淀川左岸（摂津關郡、河内下郡）略地図

天野忠幸『室町幕府分裂と畿内近国の胎動』（吉川弘文館、2020年）93ページ

⇒飯盛城を築城した意図や居城にした意図から考える

1、飯盛城の地政学

○飯盛城から見える範囲

大坂・尼崎・西宮・兵庫・天王寺・堺・京都を睥睨

西は六甲山地—明石海峡—淡路島—関空、北は比叡山、京都盆地

→奈良を除く「天下」

○周辺環境

東高野街道：首都と直通

深野池・新開池：大阪湾岸へのアクセス

→交通の良さと天然の堀、四條畷の戦い

○室町・戦国時代の北河内・淀川左岸

京都の幕府：諸権門の守護者、御料所の巨大荘園

摂津の細川氏：管領家、河内十七箇所を狙う

河内の畠山氏：管領家、摂津關郡を狙う

大坂の本願寺：大坂御坊、実賢（蓮如 9 男、母は畠山政栄娘）、河内錯乱

→諸勢力が入り混じる、不安定な支配

○野崎城

応仁・文明の乱、京都で終結（西軍の降伏と赦免）

畠山義就が河内を占領、野崎に陣取り

明応 7 年（1498）から翌年「河内野崎城」、畠山義英（義就孫）VS 畠山尚順（政長子）

→慈眼寺との関係、より高所の飯盛城へ

2、木沢長政の戦略

○木沢長政の概略

義就流畠山氏の奉行人、本拠地は誉田城や高屋城など河内南部

畠山・細川両家の分裂、畠山義堯・細川高国・細川晴元と渡り歩き河内北部で割拠

河内北部や山城南部で守護代、大和の守護と幕府より認識

○長政の城

飯盛城：最初の居城、後に畠山在氏を擁立「飯盛御屋形様」、木沢左馬允が補佐

信貴山城：後に居城、大和守護と公認

二上山城：南朝や赤沢宗益（細川政元家臣）が使用、木沢中務が城代

笠置城：木沢長政が笠置寺の寺内を改修

→平野部に拠点を置く伝統的な領主に対抗、国境の山岳地帯から勢力を拡大

○聖地の視点

飯盛城：御体塚丸に磐座

信貴山城：聖徳太子ゆかりの山、朝護孫子寺、空鉢護法堂と磐座

二上山城：聖徳太子や推古天皇の墳墓、葛城修験、葛木二上神社

笠置城：摩崖仏の弥勒菩薩、巨石が露出する笠置寺

→聖地の守護者

○『太平記』の広がり

飯盛城：楠木正行と四條畷の戦い

信貴山城：護良親王が朝護孫子寺で征夷大將軍に就任、楠木正成は多聞天の化身

二上山城：安満了願が籠城

笠置城：後醍醐天皇が挙兵

→イエズス会の宣教師たちが金属活字版で出版

南朝に同情的な記述、軍神としての聖徳太子（毘沙門天の加護）、楠木正成の活躍

3、三好長慶の戦略

○三好長慶の概略

細川管領家と阿波守護家に梁属する側近、父の仇である細川晴元との対立

足利將軍家を擁立せず首都京都を支配する政権

江戸時代初期には「天下」を治めると認識

○越水城と廣田神社・西宮神社

細川高国の命令で瓦林政頼が築城

東麓に廣田神社、南にその末社である西宮神社、西宮は摂津で唯一西国街道と港がある

→摂津下郡の守護代は西宮代官を兼任

和歌・連歌ネットワーク

廣田神社は和歌に靈驗があるとして信仰

伊丹氏が西宮神社に三十六歌仙絵を奉納

瓦林政頼も連歌の達人

『不問物語』

「普請之際ニハ連歌ヲ興行シテ月次も有、夜々ハ古文ヲ学ひ道ヲ尋ヌ、実ニ文武二道ヲ不捨仁トソ見えケル、殊ニ連歌ハ長所ニテ、近年宗祇法師カ撰シケル新菟玖波集之作者ニモ入ニケルトナン」

長慶の連歌好きの背景

曾祖父の之長や父の元長に和歌や文学の逸話はない、長慶は 31 回連歌会に出席

○芥川城と勝手明神、醍醐寺

細川高国の命令で能勢頼則が築城

摂津峡の奇岩・巨石

毘沙門天信仰（神峯山寺、本山寺）や修験が強い宗教環境

勝手明神が勧請 …大峰山の鎮守吉野八社明神の一つ、毘沙門天の垂迹、武家に尊崇

長慶の居城

細川晴元が在国の際に政務、権力や地位の継承を明示

弘治 2 年（1556）正月に嫡男義興や宿老松永久秀の陣所で火事

久秀が醍醐寺より金剛輪院殿（三宝院）御厨子所や金剛輪院殿寢殿を移築

→醍醐寺三宝院の住持は將軍の猶子になる慣例、將軍の相談役

三宝院義堯は足利義輝に与して長慶と戦い没落、義輝の使者として根来寺と連携
見せしめか（豊臣秀長の郡山城に根来寺の大門を移築）

○飯盛城と野崎観音、新羅善神堂

三好長慶と安見宗房の戦い

長慶が将軍義輝と戦う中で宗房は不安定要因

宗房は畠山高政を堺に追放、筒井順慶を庇護し大和に出兵

慈眼寺（野崎観音）

宝永5年（1708）鑄造の慈眼寺鐘銘、

一条天皇の頃（986～1011）江口の長者が長谷寺に病気の平癒を願ったところ、野崎の観音も長谷の観音と同じ霊場と夢告を得て参籠すると治癒

報恩のため堂を建立

→淀川・新開池・深野池・大和川を繋ぐ内海世界の水上交通と信仰圏が存在

渡辺氏・三箇氏・結城氏が三好氏の家臣団に編成

園城寺の新羅善神堂を勧請

三好氏の祖先の源義光（新羅三郎）が元服した由緒

足利氏の祖先の源義家（八幡太郎）とは別と主張

義輝の政策

伊達氏、長尾氏、斎藤氏、織田氏、尼子氏、毛利氏、大友氏を重用

一方で大崎氏や一色氏、斯波氏、渋川氏など足利一族を見限る

源氏長者にならない

長慶の政策

小笠原氏（信濃源氏、同祖）、土岐氏（美濃源氏）、石橋氏（足利御三家）を保護

→源氏を束ねる受け皿となる

おわりに

○飯盛城

京都（首都）と堺（大航海時代の貿易港）を結ぶ最も活力がある地域

新たな聖地の創出、足利将軍家に代わり諸国の源氏の受け皿に

長慶の死が秘匿されその遺骸が仮埋葬された「御体塚丸（郭）」の伝承

曲輪のネーミングの由来

長慶自体が「神格化」される・された可能性（豊国大明神、東照大権現）

江戸時代初期の『太平記』

飯盛城でキリシタンになった池田教正が楠木正成の孫（正行の子）として登場

参考文献

天野忠幸『室町幕府分裂と畿内近国の胎動』（吉川弘文館、2020年）

天野忠幸『三好一族』（中央公論新社、2021年）

大東市教育委員会・四條畷市教育委員会編『飯盛城跡総合調査報告書』（2020年）

中世学研究会編『城と聖地』（高志書院、2020年）